

【講演1】

東日本大震災被災のアスベスト問題 — 石巻アスベストプロジェクトを中心に —

外山 尚紀 [特定非営利活動法人 (NPO) 東京労働安全衛生センター]

ご紹介いただきました東京労働安全衛生センターという NPO で働いております外山と申します。

冒頭、山田先生のほうからお話がありましたが、アスベスト問題はあまり知られていないということです。いろんなところに使われているのですが、この教室を見回してみてもうどうでしょう。これアスベスト入っているかもしれないと思うもの、どこにあるかわかる方いらっしゃいますか？

天井を指されていました。この天井板ですね。これ岩面吸音板というものでアスベストが入っている可能性があります。ただ、この建物は新しいので、年代からすると入っていない可能性が高いと思うのですが、こういった形でいろんな場所にアスベスト含有建材が私たちの身の回りにたくさんあります。

1. アスベストの被害の現実

日本はアスベストを輸入して使ってきました。輸入量のグラフがここにあります。全体で 1000 万トンという量が輸入されて、あまりピンとこないかもしれませんが、そのうちの 8 割以上が建材に使用されました。天井板とか、吹付け材とか、そういった建材に使われた点が特徴です。

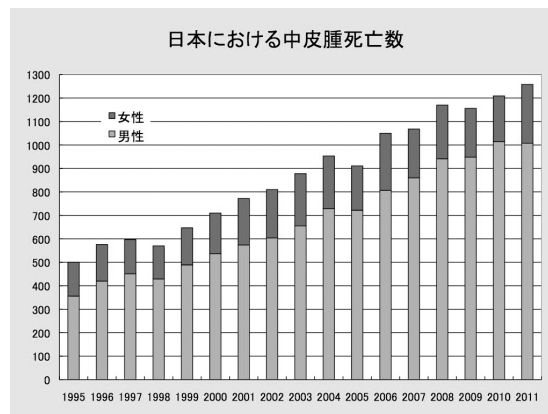
建材に使われていますので、私たちの身の回りにたくさん残されています。アスベストの建材の使用禁止は 2004 年ですから、それより前の建物に関してはアスベストが残されている可能性が高いということなので、比較的新しい建物、10 年ぐらい前の建物であっても入っている可能性があります。

この建材は何もしなければ大丈夫です。アスベストが出てくるということはありません。ただ、これを壊したり破碎したりすると、中から細かい繊維の粉末になったアスベストが出てくる。それを吸うと病気になってしまいます。割ったりすると容易に発じんして、目に見えなくて臭いもありません。もう 1 つ怖いのは、中皮腫また、肺がんを起こすということで、いずれにしても命が奪われてしまうような致命的な病気を引き起こすし、潜伏期



間がきわめて長いという特徴があります。中皮腫の場合は平均すると40年ぐらい。肺がんでも30数年ということなので、昔に吸ったものが何十年もたって致命的な病気を起こしてしまう。そういう不気味な特徴があります。

日本では高度経済成長の1960年代、70年代にたくさん使い始めて、それが20年間続いていたので、40年後の2000年代になって、こういう病気の増加が見られるようになったわけです。その辺りは後で名取先生が詳しくお話しされると思うのですが、いずれにしても16年間で2.5倍ぐらいに増えて、2011年には1258人の方がアスベストが原因の中皮腫という病気で亡くなっ

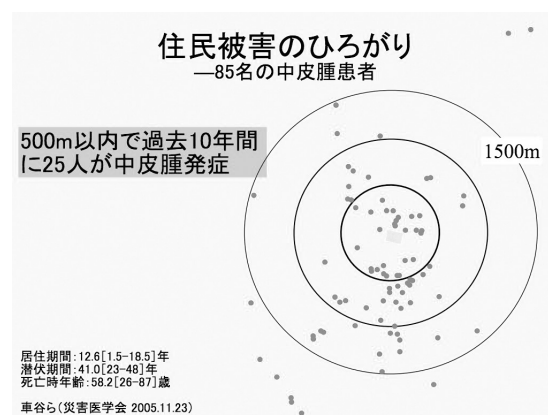


ているということです。これはやはり非常に多い数だと思います。これ以外に肺がんという病気も起こしますので数千人の方が毎年アスベストの病気で亡くなっています。放射能よりもよほど被害がたくさん出ているということで、現状で非常に大きな被害が出ているというところがアスベストの特徴です。

若い方はあまり記憶にないかもしれませんが、2005年にクボタショックということが起きて、日本でアスベストの問題がクローズアップされてきました。この問題を契機にして、いろんなアスベストの対策が始まりました。これが当時の新聞記事です。(2005.6.29 毎日新聞(大阪)夕刊)

クボタというアスベストの建材をつくらっていた工場でアスベストを使ったことが原因で工場の中で10年間で51の方が亡くなっているということと同時に、問題は「住民5人も中皮腫」ということです。周りに住んでいるだけで病気になってしまうのか、公害ではないのかということです。それがクボタショックの引き金になっていきました。その5人のうちの2人は既に亡くなってしまっているということが報道されていました。

その後調べてみると5人では済まないということがわかってきました。これ(中心)がクボタの工場で、周りで中皮腫が発症したかをプロットしてみました。半年後、2005年11月には85人見つかったということです。去年の秋の段階では247人の方がクボタの工場が原因で病気になっているということがわかっていますので、これもまた非常に大きな被害です。しかも工場の中だけではなく、周りの方、つまりたくさん吸ってない方も病気になってしまっているというところが、非常に不気味な点であります。

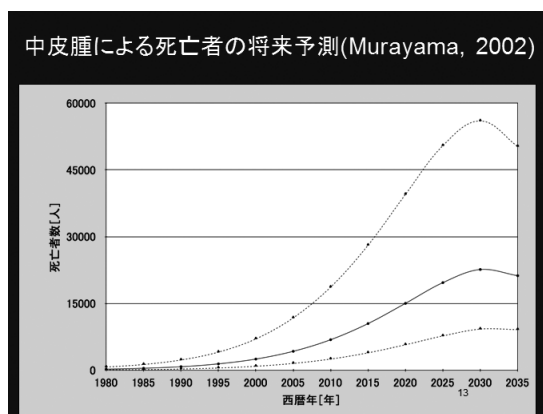


クボタの工場では何が行われていたのかというと、クロシドライトという種類のアスベスト、これは発がんしやすい、中皮腫を起こしやすいアスベストですけれども、それを使って水道管を60年代につくっていたということで、これが工場の外に漏れてしまって、周りの方が吸ってしまったということがわかっています。



アスベストの病気というのはずいぶん前からわかっていたということが知られています。「現在の知識に照らして過去を振り返ると、アスベスト関連疾患の発見と防止の機会をみすみす逃したとつくづく感じざるを得ない」ということを言った方がいます。誰の言葉かというよりも、いつの言葉かということが問題で、実は1934年です。戦前、イギリスの元主席産業医療監督官の方が、対策をとるのが遅かったというふうに既に言っているということです。でも、イギリスでも日本でも、その後大量に使ってしまったわけです。だけれども医学的には、1932年に肺がんですとか、中皮腫でも1960年にはわかっていた。クボタが使い始める頃にはアスベストが中皮腫を起こすことはわかっていた。だけれども使ってしまった。対策が非常に遅れてしまったという特徴があるということも、ぜひ記憶に置いておいてください。

問題は、これからどうなのかということです。これは2002年に村山武彦先生（東京工業大学教授）が、将来どのくらい中皮腫の方が増えるのかという予測をして、2030年にピークが来るであろうと言われています。2030年には、毎年4000人ぐらいの方が中皮腫で亡くなるのではないかと。トータルで10万人ぐらいの方が中皮腫で亡くなるのではないのかということを、2002年に予測をしています。10年たって大体予測が当たりつつあるという状況にあります。ですので、これから過去の被害が出てくるということです。



さらには、現在、様々な対策をしようとしているのは、ここから先の話だということを覚えておいてください。2030年より先に被害を少なくするために、今、対策がとられているということがあります。それはいろんな法律でアスベストの規制をしようということで行われています。

厚生労働省の関係でいうと労働安全衛生法とか、国土交通省もやっていますし、環境省もそれぞれやっているということですが、この対策が、これを見ておわかりのように縦割りです。それぞれの領域をやっているということです。例えば大気汚染防止法は、

アスベストの規制

労働安全衛生法: 新規の輸入、使用などの禁止
石綿障害予防規則: 石綿含有建材などの除去時の対策
建築基準法: 建物改修時の吹付けアスベストの除去等
建設リサイクル法: 石綿含有建材のリサイクルの禁止
大気汚染防止法: 石綿含有建材などの除去時の対策
廃棄物処理法: 廃石綿などの処理方法

震災時のアスベストの規制等

災害時における石綿飛散防止に係る 取扱いマニュアル(環境省、2007)
廃石綿やPCB廃棄物が混入した災害廃棄物について(環境省、2011/3/19)
被災地におけるアスベスト大気濃度調査について(環境省、3/28)
災害復旧工事における労働災害防止対策の徹底について(厚生労働省、3/18、3/28)
等...

今年に入って大きな改正をしようということで委員会が開かれています。私もその委員の1人ですけれども、ようやくこういう対策をきちんとやらなければいけないということが自覚され始めた時期だということなのです。

その矢先に東日本大震災が発生しました。震災に関しても、震災以前・以後いろんな省庁が震災に関してアスベストの廃棄物ですとか対策をどうするのかということの通達を出したりしています。

2. 被災地でのアスベスト調査とリスクコミュニケーション

その中で私たちは独自でNPOの立場で調査をしよう。あるいは地元の方と協力をしてアスベスト対策をしようということで、去年から震災以降各地で取り組んできました。きょうはその報告のためにお伺いをしました。

大きく分けて2つあります。去年の段階で独自にいろんな場所に行って調査をしてきました。状況を調査をしたり、空気中のアスベストの濃度を測ったり、マスクフィット研修会というマスクの使い方の講習会をやったりというようなことをやってきました。

去年の12月から今年の3月にかけては石巻に焦点を絞った形の調査をしてきました。きょう主に話をするのはこの部分になります。その後の調査も続けてきています。

去年の5月の段階で初めて私は被災地を訪れました。そのときの映像はこんな感じです。これは女川町の消防署ですが、津波で被害を受けてアスベスト含有建材がむき出しになっている状況です。津波で湿気てはいるのですけれども、表に露出してしまっていて、飛散してもおかしくない状況があります。これが吹付けロックウールというものです。アスベストが入っている可能性があります。ただ、分析をすると、これには入っていませんでした。



これは小学校の体育館ですけれども、外壁にアスベストが10%以上入っています。こういったものにアスベストが入って、砕けて散らばってしまっています。



これは石巻です。石巻は漁港で、倉庫ですとか水産加工工場が非常に多いですので、こういう感じの建物があります。東京でもあると思います。波板スレートという波形をした板で壁と天井がつくられている中で工場だったり倉庫だったりする。そういう建物ですが、この波板スレートにはアスベストがほとんど必ず入っています。そういう建物が大量に被災しているという状況がわかりました。



被災した建物の建材はがれきの仮置き場に集められています。そういう場所も見せていただいて濃度測定をしたりしているのですけれども、よく見るとやはりアスベスト含有建材が、こういう黒いものですが、混ざってしまっているという状況がありました。がれきの仮置き場にほかのものと一緒に畳とアスベスト含有建材が混ざってしまっているという状況がわかってきました。



去年の調査は、ざっといろいろな場所を尋ねて見てきたという調査ですけれども、その中でわかったこととして、こういう吹付け材は危ないんです。アスベストが入っていると非常に飛散しやすい。もろいですから、触っただけでも飛んでいく。風が吹いても飛んでいくというものがあることはあるのですけれども、非常に危険なもの、含有率が高いようなものは実は少ないということがわかってきました。スレートなどの成形板という工場加工されたものが大量に残されていました。触らなければ飛ばないのですけれども、被災をしてしまって、その後解体工事に入る。そういうところで飛散する可能性があるということがわかってきました。



マスクフィット研修会も非常に重要な私たちのアイテムとしてあります。これは石巻赤十字病院で、ボランティアですとか、住民ですとか、関係の業者の方に集まっていただいて、マスクのつけ方をみんなで教わろうということでやりました。簡易マスクで、これは本当はアスベストの作業では使えないのですけれども、ボランティアですとか、近くに行かざるを得ないような方は、こういうマスクで対応せざるを得ないという状況があります。こういった簡単なマスクでも、ちゃんとつけ方を教わらないとできないということです。なので、そういう情報を伝えることも大事な役割だということです。



高放射性の高レベル(吹付け材)、レベル2(燃焼材、保温材)はそれほど多くなく、スレート板などのレベルが大量に残されている。



マスクフィット研修会
石巻赤十字病院 2011/5/19, 6/18

去年の調査の中で1つエピソードを紹介したいのですけれども、これは波板スレートです。アスベストが入っているものを重機でバリバリ壊していた。散水も何もしてない。マスクも何もつけてないという状況があったので、どうしようかなと思ったのですけれども、私も意を決してこの現場に行って、これはまずいと。いろんな法律に違反するし、アスベストが飛散してしまうということで話をしたんです。そうしたら、その現場の監督さんがわかってきて、散水をしましょう、マスクも使いましょうと、その場で約束をしてくれました。私たちも次の予定があったので、そこを離れなければいけなかったのですが、私もあまり性格がいいほうではないので、2日後に抜き打ちでまた行って見たんです。そうしたら、こうなっていました。ちゃんと散水しているんです。これは女川町なんですけれども、町から散水車を借りてきたということと、見てください、マスクもちゃんとつけています。これは非常によかったなとか、きちんとやろうと思えばできるということです。そういう手応えも得たので、こういうリスクコミュニケーション的なことをしながら改善を続けていこうということで考えました。



3. 石巻アスベストプロジェクト

去年の12月から石巻アスベストプロジェクトというのを立ち上げようと考えました。被災地があまりにも広いので全体は網羅できないということで、石巻に絞ろうということです。

これは被災して2ヶ月後の日和山というところから見た写真です。

今年の2月になると、こんな感じでたいぶ片付いてはくるのですが、このがれきは全部ちょっと離れた仮置き場に移動しているというような状況で、まだまだたくさんこれから解体しなければいけない建物があるという段階です。



【目的】

石巻アスベストプロジェクトでは、石巻に焦点を絞って含有建材の状況を調べるということ。それから気中のアスベストの測定をしようということ。また、それらを評価して、今後の合理的なアスベスト対策を検討しようというようなことを目的として、昨年度集中的に続けました。

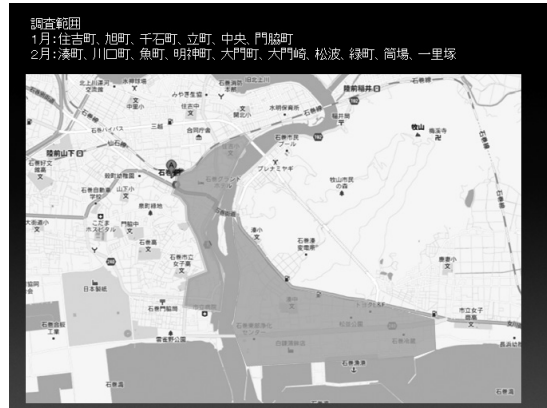
[方法]

方法としては、どこに含有建材があるのかということ在地図の上で占めするためにマッピングということをしました。マッピングをしながら危なそうな場所を見つけて気中の測定を実施しました。

あとは現場で作業している方などに話を聞いたり、地元の方と意見交換をしたり、マスクフィット研修会などをやりながらリスクコミュニケーションを進めていこうということでやりました。

マッピングは2回ほどやりまして、ボランティアの方が、延べ58名の方が参加をして、みんなで行って被災地の状況を見て、それを地図の上に落としていこうということをやってきました。

石巻は非常に広いのですけれども、実施したのは、津波で被害を受けた漁港の辺りですとか、こちら(中)が中心地です。こんな形でみんなに参加をして調査をしました。



[結果]

- 吹付け石綿のある建物 1棟
- 吹付けロックウール(石綿含有は不明) 14棟
- 波板スレートのある建物(石綿含有は不明) 140棟

何をマッピングするのかということですが、1つは吹付け耐火被覆を、もしアスベストが入っていると飛散しやすく危険なので見つけようということをやりました。これは14カ所で見つかったということです。ただ、これは分析しないとアスベストが入っているかどうかはわかりません。できるものは分析したのですが、実は入っているものは非常に少なかったということもわかりました。ロックウールはあるのだけれども、アスベストが入っているものは少ない。

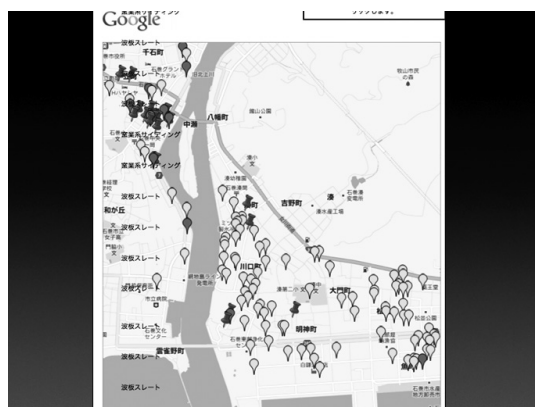
あとは波形スレートです。これは一目見ればわかります。慣れれば誰でもわかるので、外壁材とか天井材に使われているもので、これはほぼ100%アスベストが入っているものです。なので識別しやすいということで、これも調べる。この2つだけに焦点を絞ってマッピングをしました。



スレートの建物は140棟で、吹付け材の10倍の数が見つかったということで、非常に

これが多いということです。1階の部分が破碎されていて、2階の部分が残っているというような、震災から1年ぐらいたっても、やはりこういう状況の場所が非常にたくさんあったということです。

マッピングするとこんな形です。黄色のマークがスレート材です。赤が吹付け材ということで、こんな形でGoogleマップ上で見ることができます。



いろんな場所をみんなで見ながら行ったんですけど、こういう場所があります。自分で改修工事をやってしまっているのです。建設業の方ではなくて、ここの持ち主の方が改修工事をやってしまっていて、これを見ると電動丸ノコがあって、自分でやっている。これはアスベストが入っているということを知らないという状況があって、実は入っているんですよという話をしました。新しいものがここに積まれています、これはアスベストが入ってない材料なんです。なので、電動丸ノコで切っても大丈夫です。だけれども、もし知らないで古いほうを切ってしまうと、アスベストが大量に飛び出してしまうというので、それはぜひ気をつけてほしいと思います。

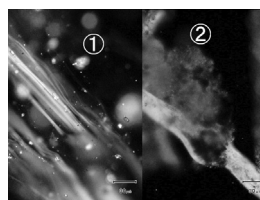
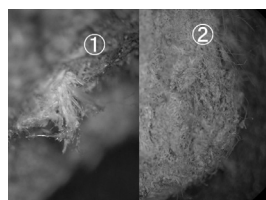


(動画) スレート板を拡大して見てます。スレート板は堅いんですけども、実はこれ少し飛び出していて、ピンセットで触ります。触りますと繊維が飛び出しそうになります。それで、これから風を当てます。そうするとどうなるか見ててください。こういう形で、硬そうに見えるけど、実はもろいなという感じがわかるかと思います。こんなような状態になっているということです。実は危ない。

(動画) それから、これはどうでしょう。破碎してしまうとどうなるのかということです。バリバリ壊しています。この人にサンプラーを付けていただいて、どのぐらいアスベストを吸ってしまうのかということのを測りました。これはずいぶん前で2000年頃にやった調査です。この方はこれぐらい非常に高濃度なアスベストを実は吸ってしまっている(石綿濃度4350本/L)。作業の基準でいくと150本が許容濃度というか基準なので、それと比べると30倍近いものを一度に吸ってしまうということになるので、非常に高濃度なものが出てくる。

被災地で見えていくと、割られてしまったアスベストの入っているスレート板がたくさんつまれているという状況もありました。

例えば改修工事があります。古い建物で1階が破壊されてしまって、1階の部分はアスベストが入っていない建材を入れて、2階の部分はアスベストが入っていて、まだらになってしまっている。



そうすると、①のほうは入っているけど、②は入っていない。拡大してみるとこんな形で違いがわかると思います。さらに拡大するとこんな形で、ループで見ただけでも大体わかってしまうというところもあります。

みんなでこんなことをやりながら調査をしました。

がれきの仮置き場にフレコンバッグがたくさん集められていきます。石巻市のがれきの仮置き場は、この当時で3000袋アスベストを集めたものがあるそうです。



こんな形で破碎されてしまっているということです。

話を聞いてみると、袋に入れるために破碎しているということがわかったので、ぜひもっと大きな袋を使って、アスベストを割らずに入れられるように工夫をしてほしいというような提言もしてきました。



もう1つ非常に危険な場所が見つかったところです。石巻市の市街地で津波で2階まで壊されてしまっている。これは吹付け材ですが、先ほどのと違うのだそうです。吹付けのアスベストなんです。含有率80%ぐらい入っているものが見つかった。津波で破壊されたものが周りにも飛び散ってしまっていて、ここが一番危ないということで、ここの部分に関しては行政の皆さんとも話をし、きちんと対策をしようと、私たちもこの辺りで中心的に濃度測定をしました。そうすると、やはり空気中にもアスベストが出ていることがわかりました。



濃度測定結果は私たちのホームページに全部出ていますが、見てみますと2.3 f/l。1リットルあたり2.3本という数字が出ました。そんなに高くはないですよ。だけれども、その周辺でわずかに濃度が少し上がっているということがわかったということです。やはり目で見ても危ないところできちんと測ると少し濃度が上がるということがわかりました。

[リスク評価]

リスク評価はどうかということ、2.3本でどのぐらいの発がん率があるのかということをざっと計算をしてみました。仮に1カ月間あそこに滞在すると100万人に対して0.48人という発がん率があるということがわかりました。

これをどう評価するかということですが、例えば一生涯アスベストをもっとも低い濃度で日本で吸い続けると、100万人あたり19人という数字があります。冒

頭でご紹介ありました仙台市の漏洩事故などを見ると、これを1カ月間吸ってしまうと100万人あたり25人という数字ですから、それから比べるとずいぶん低い。だけれども濃度が少し上がっているということがわかったということです。そういう結果を地元の方に返したというようなことをしました。

④リスク評価

気中アスベスト濃度2.3f/Lをどのように評価するか？

$$2.3\text{f/L} = 0.0023\text{f/ml} \times 0.28 \times 1\text{ヶ月} = 0.48\text{人}/1,000,000\text{人}$$

参考：

一般環境で0.1f/Lのアスベストに生涯曝露すると・・・

$$0.1\text{f/L} = 0.0001\text{f/ml} \times 0.28 \times 77\text{年間} = 19\text{人}/1,000,000\text{人}$$

仙台の漏洩事故 360f/Lに1ヶ月間昼間のみ曝露すると・・・

$$360\text{f/L} = 0.36\text{f/ml} \times 0.28 \times 1\text{ヶ月} = 25\text{人}/1,000,000\text{人}$$

[提言]

① リスクを知るための提言

- (1) 吹付け材など飛散性の高いアスベスト含有建材について情報を提供・集約し、その表示を行います。
- (2) アスベスト含有が不明の吹付け材は、早急に分析により含有の有無を確認します。
- (3) アスベストを含有する吹付け材が外部へ露出している場合は、アスベスト粉じんが発生している危険があるため、応急処置としてビニールシートなどで囲います。
- (4) スレート材などの成形板にもアスベスト含有の可能性があり、破碎等によって飛散すること、など適切な情報を集めます。

最終的には昨年度の段階で提言をまとめました。これは皆さんのお手元にありますので後で見えておいていただきたいのですが、リスクを知るための提言をしようということで、情報を得るということ。あるいは調査をきちんとやろうというようなことを提言してきました。

私たちが強く感じたのは、被災してから調査をしようとしても、ある程度はできるのだけれども、限界があってきちんと把握ができないということ、非常に強く感じました。

② 工事のリスク低減のための提言

あとは工事のリスクを低減するための技術的な提言ということで、監督を強化するとか、その他の技術的な提言をする。あるいは作業者の教育をしようというようなことも、こうした形で7点にまとめたということです。

これを石巻市ですとか、労働基準監督署とか、住民の皆さんにお返しをしていったというようなことをしました。

②工場のリスク低減のための提言(1)

- 1.各行政機関は、吹付け材など飛散性の高いアスベスト含有建材除去作業への監視監督を強化し、同時に技術的な支援を行います。
- 2.発注者である行政機関は、全ての建物にアスベスト含有建材が使用されている可能性がある認識に立ち、関係法令遵守と飛散防止対策を業者選定の条件とします。
- 3.がれき仮置き場の管理者としての行政機関は、アスベスト含有建材の分別回収と管理を強化します。
- 4.行政機関が石綿特別教育、石綿作業主任者技能講習を提供します。

②工場のリスク低減のための提言(2)

- 5.スレート板など成形板は、除去する際に湿潤化すること、破碎せずに除去・回収することを周知徹底し、そのための技術的な支援を行います。
- 6.古いスレート板は再利用しないこと、特に電動工具を使用して加工しないことを周知徹底します。
- 7.改修によってアスベスト含有スレート板と新しいアスベストを含有しないスレート板が混在してしまう場合は、新旧の区別を記録し、保存します。

4. 石巻アスベストプロジェクト その後

1) 労働者教育

その後の話を少ししたいのですが、石巻市といろんなやりとりをしながら、やはり労働者の教育、作業者の教育が十分にはできてないという話になって、これは石巻市とお話をさせていただいて、特別教育を実施することになりました。これは法律で定められているのですが、市が主催で、私が講師で行って4回開催をして、実際に現場で作業する人270名の方が受講していただきました。

石綿作業主任者というのも法律で義務づけられているのですが、これも私たちが主催をして、50名の方が受講しました。こういう教育の部分をしっかりやろうということをやってきました。

これがそのときの教育の様子です。私たちのトレーニングは実践的で、マスクの使い方も1人1人マスクを持ってもらってやるですとか、含有建材も実際の建材を見てもらって、自分の目で見てわかるものもあるので、そういったものを勉強してもらおうという目的でやりました。



2) 不十分な成形板対策

様々な課題も残されています。これは、目視でアスベストないですよという看板を出しているにもかかわらず、実は中を見るとアスベスト含有建材がいっぱい破碎されて置かれ

ているというような状況が、実はまだまだたくさん被災地ではあります。

もう1つは、これは非常に残念な結果なんですけれども、石巻市で見つけた吹付けの現場です。こういう現場を2011年12月の段階で私たち見つけたんです。濃度が上がっているよという話をしました。

3月には石綿の除去作業としてこの中のアスベストを全て除去する作業が行われました。本当はここで全部アスベストがきれいになっていなければいけないはずなんですけれども、8月に建物の解体工事が行われており私たちが行ってみると、どうなっていたかという、もうアスベストが至るところに落ちている。取り残しですね。工事をきちんとできなくて、かえってアスベストが飛散してしまっているという状況です。20センチぐらいのアスベストの塊が落ちているという状況です。それから柱。本当はきれいに取り除かなければいけないのですが、吹付材がベッタリ残っているような状況でした。これは監督署に報告をして、すぐ対策をとらなければいかんということで、工事を止めて再度除去工事をしましょうということ、いまお話をしているところです。



3) 除去工事の失敗

この事例は大変残念な結果ではあるのですが、ある意味やむを得ないというか、いまの日本では、どこでも起こり得るということであって、除去工事の失敗あるいはずさんな工事なんですけれども、現状では資格もライセンスもないんです。誰でもできます。アスベスト除去工事は難しいのですが、誰がやってもいい。解体されてしまう建物ですから証拠は残りません。なので、手を抜けばそれだけもうかるという構造があります。ちゃんと取れているかどうかという完成検査を誰もやりません。行政もやり方を知りません。行政も圧倒的に人手不足です。特に被災地は大変な状況だということです。こういう状況が重なって起こるべくして起きた事故であって、こちらはむしろ日本全体のアスベスト対策に反映していかなければいけない問題なのかなということも考えました。

4) 課題

これからの課題ということですが、一般の社会の中でアスベストのリスクがあまり認識されていないという状況があります。放射能はだいぶ騒がれていますが、アスベストの方は、今まさに現実の被害が大きくなっているものです。しかし、皆さんそういうことは知られていないで、危機感も小さいようです。

行政などの対応も非常に甘くなっている面があります。そのため、被災地だけではない
いろんな問題が被災地をめぐって起きてしまっていて、それを解決しなければいけない。
長期的なアスベストの対策をきちんと考えなければいけないという状況になってきていま
す。

もう1つ、これはきょうお話ししなかったのですけれども、震災が起こる前に、例えば
こういう建物のアスベストがどこにあるのかということ調べて、きちんと記録しておく
ことをしないと、また同じことを繰り返してしまうということがあるので、これもきちん
とこれから考えていかなければいけない。

被災地のアスベスト問題ということでお話をしましたけれども、実はそれだけではとど
まらない非常に深いアスベストの課題が明らかになってきたということで、私の話を終わ
らせていただきたいと思います。ありがとうございました。(拍手)

司会 外山先生、ありがとうございました。「アスベスト」について、どれだけ知っている
か、知らないかがすごく大きな問題であるということが非常によくわかったかと思いま
す。まさに、リテラシーの問題だと思います。

日常生活の場面のいろんなところに「アスベスト」があります。禁止をしたのが2004
年ですから、それから8年が経っています。しかし、建物というのは長く使うものだから、
すぐなくなるものではありません。そこが、非常に大きな問題となるわけです。使用を禁
止すれば、マスコミも含めて、皆がそれを話題にしなくなる。それで「アスベスト」の被
害が大きく減少すれば良いのですが、現実には、建物という性格上、そう簡単には、リス
クは減少しません。それ故に、使用を禁止した時点で「アスベスト」が話題に上らなくな
るというのが、実はすごく大きな問題ではないかと思っています。

それでは名取先生にバトンタッチということでお願いしたいと思います。